

記録書 No.4

(2018 年 04 月 2 日 ~ 2018 年 4 月 20 日)

2018 年 4 月 23 日
乃村研究室 B4
吉田 修太郎

0. 前回ミーティングからの指導・指摘・学んだ事項

(1) 資料では，指示代名詞を避ける．

[4/23, 第 10 講義室，谷口先生]

(2) 資料では，初出の用語について説明する．

[4/23, 第 10 講義室，谷口先生]

(3) 資料では，図や表を用いて説明する．

[4/27, 102 号室，谷口先生，乃村先生]

1. 実績

1.1 研究関連

(1) 2018 年度 B4 新人研修課題に関する項目

(A) Debian のインストール (100 % , +100 %)

(B) Linux カーネルの再構築 (100 % , +100 %)

(C) システムコール実装の手順書作成 (100 % , +20 %)

(D) Ruby による SlackBot プログラムの作成 (100 % , +85 %)

(E) Ruby による SlackBot プログラムの報告書，仕様書作成 (100 % , +100 %)

(2) に関する項目

(A) Mint のインストール (50% +50%)

1.2 研究室関連

(1) 株式会社クレオファーガ 訪問 (4/26)

(2) 第 351 回 New 打ち合わせ (4/27)

(3) 乃村研ミーティング (5/14)

1.3 大学関連

(1) 非手続き型言語 (aa)

1.4 その他

- (1) GitHub Patchwork Okayama -2018 (5/11)

2. 詳細および反省・感想

2.1 研究関連

- (1D) 現在，Ruby による SlackBot プログラムの作成に取り組んでいる．SlackBot とは，Slack というチャットツールで利用できる Bot のことである．また，今回はフレームワークとして Sinatra を用いる．Sinatra とは，Ruby で作成されたオープンソースの web アプリケーションフレームワークである．Ruby を用いてのコーディングは今回が初めてであり，Sinatra を利用することもまた初めてであるため，それぞれの仕様をよく調べながらコーディングを進める．

2.2 研究室関連

- (1) 本勉強会では，Git の概要，その仕組み，および使い方について学んだ．これまでほとんど Git を利用することがなかったが，これを機に積極的に Git を利用し，Git を十分に使いこなせるようになる．まずは，これまでクラウド上に最新のファイルのみをアップロードして管理していた文書について，今後はその管理を Git によって行う．

3. 今後の予定

3.1 研究関連

- (1) Ruby による SlackBot プログラムの作成 (4/27)
- (2) Ruby による SlackBot プログラムの報告書，仕様書作成 (4/27)

3.2 研究室関連

- (1) 全体ミーティング (4/23)
- (2) 第 351 回 New 打ち合わせ (4/27)
- (3) 乃村研ミーティング (5/14)

3.3 大学関連

- (1) 非手続き型言語 (4/23, 24 , 5/1 , 7 , 14 , 15)

3.4 その他

- (1) Patchwork Okayama -2018 (5/11)